



7月号
令和8年6月30日

与野西北小だより



開校 60 周年
キャラクター
ろくまる

学校経営方針 【みんなでつくる みんなの与野西北小学校】

児童会スローガン【 せ・い・ほ・く だ・い・す・き 】

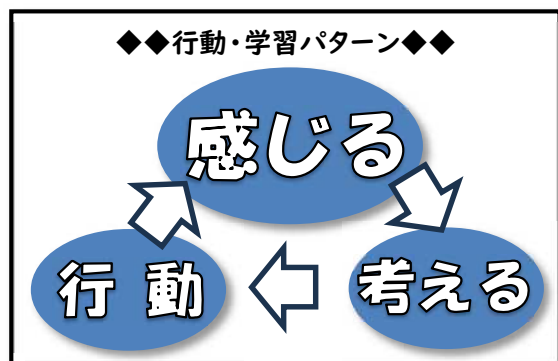
【学校教育目標】 ◇みんなと協力する子（徳育） ◇自分の力で考える子（知育）
◇心身ともに健康な子（体育） ◇人との関わりを大切にする子（養育）

与野西北小学校 Tel.853-0109 ホームページ <http://yonoseihoku-e.saitama-city.ed.jp/>

「感じる心」から始まる 成長ループ

校長 緒方 健二

先日、5年生の館岩少年自然の家へ宿泊学習が行われました。南会津の大自然の中で、登山や川魚さばき、キャンプファイヤーと充実した3日間を過ごしました。子どもたちは、「きれい」「すごい」「おもしろい」と、目を輝かせていました。まさに感動という言葉の通り、感じて心が動いていたのだと思います。今回の館岩少年自然の家での宿泊学習で、改めて「感じる心」の大切さを実感し、子どもたちも感じる心が豊かに育っていることにうれしく思いました。



私は「感じる心」がとても大切だと考えています。人の行動・学習パターンは、左図のようになっています。この一連の流れで行動・学習しながら成長しています。「すごい！」「どうして？」「やってみたい！」と感じる心が、行動・学習の原動力となります。そして、このエネルギーが大きければ大きいほど、考える力、行動する力が大きくなっていきます。さらに、実際に行動・学習してみた結果、おもしろいと感じることができれば、このループが継続されていくことになります。

好奇心が人を成長させたり、偉人たちの大記録や大発見につながったりという話はよく聞きます。しかし、それは特別な力をもった人の特別な話ではありません。幼い子どもは、誰もが好奇心の塊です。身の回りの全てのものに興味をもって関わるからこそ、大人とは比較にならないスピードで成長することができるのです。

興味をもつことが多ければ多いほど、考えて行動する機会が増えることになります。そして、その積み重ねが大きな力となり、自分を作っていくことになります。感じる心を育てる方法はたくさんありますが、特別な経験をする必要はありません。経験の内容よりも経験の質が重要になります。例えば、お子さんが不思議だと感じた場面では、一緒に不思議がる（不思議さを共有したり、共感したり、不思議に感じたことを認めたりする 等）ことで、お子さんの好奇心を大きく膨らませることができます。楽しいときに1人で笑うよりも、2人で笑うほうが楽しさも2倍になるのと同じです。それが大好きな家族であれば、その効果は一層期待がもてます。今回の館岩少年自然の家の宿泊学習では、子どもたちがそれぞれの想いを声に出して、共感できたことが感動を大きくし、素晴らしい体験になったと思います。間もなく、夏休みを迎えます。ぜひ、ご家族で素敵な時間を過ごしていただき、「感じる心」を育てていただきたいと思います。

「知る」ことは「感じる」ことの半分も重要ではない。

アメリカの生物学者 レイチェル・カーソンの言葉です。
レイチェルは著書の中で、次のようなメッセージを残しています。

子どもたちが出会う事実のひとつひとつが種子だとしたら、

さまざまな情緒や豊かな感受性は、この種子を育む肥沃な土壌です。

幼い子ども時代はこの土を耕すときです。「センス・オブ・ワンダー」より

